

る部落。茂徳紀園に、中代村野中に御茶、水とて井戸輪を伏せた所がある。昔藩侯が鷹野御成の際御茶の料に用ひたものであると記する。

**ナガタウシスケ** 長田牛助 慶長十五年の頃、歌舞伎者と稱して横行した無頼者の首魁。前田利長命じて之を捕へしめ、牛助は神尾圖書宅に自及して西尾軍人介錯し、其の弟乙部は水原左衛門宅にて自及、宮崎蔵人が介錯した。

**ナガタカツヨ** 長田勝世 通稱市兵衛。初め前田利長に仕へ、後に大坂冬役に足輕頭として出陣し、夏役に篠山で首一つを獲、祿五百石に至つた。その孫作左衛門自殺して家断絶した。

**ナカタカハ** 中田川 江沼郡中田領大黒から流出し、同領もう谷で大聖寺川に合する。

**ナガタキ** 長瀧 能美郡山上郷に属する部落。能美郡名蹟誌に、長瀧村の東の山に谷川の水七段に流れ下るを七瀧といふ。因つて七瀧村といふたのが訛つたのであると記する。

**ナガタキ** 長瀧 能美郡長瀧(部落名)の東方四〇〇米に在る瀧で、一に七瀧とも稱する。部落の名も、そこに在る多伎奈彌神社も皆之に因つて起る。天保五年金子有斐の子守株の記に、『長瀧村に到り、路を尋ねて水流に遡り、山に入ること二三町許にして瀧あり云々。水源山上にあつて瀧水落ること二三丈もあらんと見えつ。立岩色黒くして、其形奇し。皆四角に切りたるものにひとし。水は岩間に落ちて瀧壺に入り、流るゝに亦壺あり。如此流るゝに瀧壺七つありて水灘を落る故に七瀧といふ歟。又瀧の長きを以て長瀧といふ歟。』

とある。

**ナガタキヘエ** 長田儀兵衛 市右衛門の子。慶安三年前田利常に仕へて七十石を領し、寛文三年御歩小頭として三十石を加へ、九年仙後院御附として五十石を加へ、元禄六年會津侯より五十石を加へられ、三十七年その職に在つて歸藩し、寶永六年四月歿した。

**ナガタキヘエ** 長田儀兵衛 御馬廻組祿二百石長田新藏の子。安永四年途中に於いて町人田中屋市右衛門を手に掛けたが、切留め得なかつたから、之を殺害したいとその父から出願した。依つて願末を調査してゐたうちに儀兵衛は出奔した。

**ナガタクニノリ** 長田邦教 通稱兵左衛門。父庄右衛門の遺知二百石を受け、享保十一年前田宗辰の御抱守に任じ、後祿百五十石を加へ、十八年致仕して佳休と號し、二十人扶持を受けたが、二十年發狂し、寛保二年十二月十八日享年八十四を以て歿した。

**ナガタクロベエ** 長田九郎兵衛 初めて前田利家に仕へて百五十石を受け、子孫藩の御異風として相繼いだ。

**ナガタケ** 長竹 石川郡中奥郷に在る部落。長竹の小学に越中屋といふのは、昔越中頃から來た者の開墾して、遂に一部落をなしたものであるといはれる。

**ナガタジュンジロウ** 長田順二郎 石川郡徳用の人。初名長四郎・長兵衛。天保四年十三歳の時同郡二日市村長右衛門に田地割算を習ひ、弘化三年瀧川秀藏に、嘉永元年河野久太郎に、二年石黒藤右衛門に就き、算法及び算測を學び、文久二年測置雜集三巻を編し、前後藩の土木測量に従ふこと多かつた。明治

三十七年十一月十四日享年八十四で歿。

**ナガタシヨウエモン** 長田庄右衛門 前田利長に仕へて祿三百五十石を受け、大坂再役に二、丸に於いて敵一人を討取つた。子孫藩に世襲する。

**ナカタシヨウザブロウ** 中田庄三郎 金澤の家柄町人。諱は長主。家を紙屋と稱し、町年寄・銀座役等を業とした。庄三郎佛を信じ、大乘寺月舟に歸依して不生齋政安靜家居士と號し、卍山の襲席するに及び益外護の力を盡くし、元禄元年その衆寮・浴室を作り、尋いで卍山の京都鷹峰に移るや、七年爲に源光庵を建て、寶永元年復古堂を庵内に興し、二年大藏經を納め、その他所々佛寺の爲にも寄進する所多かつた。庄三郎又茶肆に親しんで的庵を稱へ、享保二年九月五日齡六十を以て歿。

**ナガタテンジンシヤ** 長田天神社 石川郡長田に鎮座し、もと本馬所の天神といふた。式内等舊社記には『長田神社、長田村鎮座、稱『長田天神。』とある。神社の向かうに天神島といふ地があり、初はそのに在つたといふ。藩政の時には本山派の山伏成應寺之が別當を勤めたが、明治元年神佛混淆廢止の後、復飾して橋兵部といひ、六年社號を長田菅原神社と改めた。

**ナカタナガカタ** 中田長堅 ↓カミヤイチベエ 紙屋市兵衛。  
**ナカタニ** 中谷 鳳至郡仁岸郷に屬する部落。明治に至り西中谷と改めた。  
**ナカタニ** 中谷 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。明治に至り東中谷と改めた。  
**ナカタニ** 長谷 能美郡輕海郷に屬する部

落。

落。

**ナカタニ** 長谷 珠洲郡馬渡の内の小字。  
**ナカタバマ** 中田濱 珠洲郡仁江の内の小字。

**ナカタヒコ** 長田彦 能登名跡志鳳至郡皆月の條に、『長田彦とて利家公より御扶持戴きある山廻役あり。』と見える。この長田彦は、『暮坂村寛文十二年分年貢米の事』といへる文書に、皆月村彦・鹿磯村藤右衛門の連署ある、その彦の家筋であらう。

**ナガタマチ** 長田町 金澤の町名。もと郡地であつた。龜尾記に、『長田町は其の初元祿の頃、二十五戸前田近江守下邸の地邊に家建す。是は廣岡の村地也。』とあり、又年代摘要には、『享保十二年六月北廣岡村・長田村町網新家願之通建之。』ともある。文政四年二月郡地のヶ所の町奉行裁許となつた時、長田村領出町は長田町の町名を立て、此の時廣岡村領の分も長田町へ建込んだが、尙村方に地子米を納める相對謝地であつた。

**ナガタヤエモン** 長田彌右衛門 前田利家の能登七尾に居た時召出されて百二十石を領し、慶長十六年五月歿した。この嫡流は四代作左衛門通遷中に歿して断絶したが、支系は世々藩に仕へた。

**ナガタユミノマチ** 長田弓ノ町 金澤の町名。長田町の裏で、藩政中は持弓組足輕の組地であつたから、俗に長田の組ともいふた。  
**ナガツキシユウ** 長月集 一冊。表題には長月集、序には後無射集とある。千代尼五十回忌の追善發句集で、黄年・雪資の發起によるといひ、題號は千代尼が九月に歿した所から取る。序は文政七年秋九月松任三宅晋。跋